

対面での秋の講演会を開催しました!

あけましておめでとうございます。本年も近畿教育オーディオロジー研究協議会をよろしくお願い致します。

昨年、11月30日(土)に「秋の講演会」が行われました。5年ぶりに対面型のみの実施でした。たくさんのご参加ありがとうございました。遅くなりましたが、第88号では、みなさんから寄せいただいたアンケートからご感想を紹介し、講演会を振り返ります。

「軽度難聴児や人工内耳装用児の聴覚活用と自己理解」

相模女子大学 学芸学部こども教育学科 特任准教授 松森 久美子 先生

〈参加者の声〉

- ・知識としては知っている内容が多かったのですが、いざそれを指導となったらかなり難しいな…というのが率直な感想です。聾学校だと聞こえている、社会に出ると聞こえていない。そういった子がたくさんいるという松森先生の経験談を通して、子ども達に何ができるのか?再考させられました。
- ・基本的な部分から丁寧に話いただき、事例も交えたお話で大変わかりやすく、勉強になりました。発音についても指導方法をご教示いただいたので、早速実践していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・現在、一歳児クラスの担当です。クラスの中には人工内耳したての子どももいれば、軽中等度の補聴器の子どもも居るという状況です。まだ乳幼児期の子ども達なので、明瞭な言葉が出る子どもが少ないのもあって、手話も表出の一つとして子ども達が習得していけたらという思いや、将来手話か音声か自分で選択していけたら良いなという思いもあって、これまで保育の中では基本的に全てに手話をつけてきました。ただ、今回の講演のオーディトリリーサンドイッチの話聞いて、人工内耳の子どもも増えている今の聾学校では、必ずしも聾学校だから手話を使わないといけないという訳ではないのだということに気付かされました。



- ・保護者の中には障害を受容するのが難しい保護者の方もいらっしゃいます。保護者の中には手話や絵カード等の視覚情報は使って欲しくないという方もいらっしゃって、どうしたら良いか私自身悩んだこともありました。なので、オーディオリーサンドイッチを聞いた時は手話も音声も使うことが出来て画期的だなと思ったし、これから保育の中でも積極的に使っていきたいと思いました。あと、松森先生がカウンセリングの際に「この人は私のことが好きなんだと思って、こちらがまずは心を開く」という心がけをされているということも印象的でした。保護者の中にはこちらが歩み寄ろうとしても、どうしても心を開いてくれない方や開いてくれたと思ったらすぐに閉じてしまう人等、本当にいろいろな方がいらっしゃって、私自身も何度か心が折れそうになりそうな時もありました。ただ相手に飲み込まれてこちらが心を開ざしてしまわないように松森先生の心がけていらっしゃることを私自身も心がけながら、お母さん達や子ども達と一緒に歩いていけたらと思いました。とてもわかりやすく、明るくて温かい松森先生のお人柄がわかる講演会でした。ありがとうございました。
- ・基礎から応用まで、詳しくわかりやすいお話でとても勉強になりました。今日、早速復唱やってみました。即使える手段を教えて頂けたので、参加してよかったです。
- ・ある程度聞こえている生徒たちの困り感、事例、解決方法等具体的にわかって良かったです。
- ・発音についても学べて、多岐に渡り勉強になりました。
- ・基礎的なところから順を追ってお話いただいたのでとても分かりやすかったです。
- ・事例で実際にどのようなアプローチが有効かなど、実指導に活かせる内容もあり、大変勉強になりました。ありがとうございました。

〈今後の予定〉

(令和7年)

- 1月24日(金) 第3回代表委員会(京都府立聾学校)
- 1月25日(土) 冬の学習会(京都府立聾学校 ゆめホール)



講師 喜屋武 睦 先生(福岡教育大学 教育学部特別支援教育研究ユニット)

演題 『 聴覚障害児における韻律情報の活用 ～言語及び社会情動面から～ 』

講師 芦田雅哉 先生(京都府立聾学校舞鶴分校 首席副校長)

演題 『 集う・つながる・創り出す ～舞鶴分校が目指す地域との連携・協働とは～ 』

- 3月下旬 集録第25号発行、機関紙89号発行

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

〒670-0012

兵庫県姫路市本町 68 番地 46

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校内

TEL:079-284-0331

FAX:079-222-5237

メール:kinkieaa@gmail.com